

岐阜県立可児工業高等学校

学 校 長 江口 健治郎

学校住所 可児市中恵土 2358 の 1 電話 0574-62-1185

1 会議の名称 平成27年度可児工業高等学校評議員会 （第2回）

2 会議の構成 委 員 有本 敦子 P T A 役員
石原 里佳 元 P T A 役員、会社役員
小池 實 可児市中恵土自治会連合会長
林 善彦 可児市下恵土自治会連合会長
藤田 幸夫 (株)甲山製作所社長
(委員名五十音順)

学 校 側 江口 健治郎 校長
若尾 泰明 教頭
伊佐治 敬二 事務長
土田 公成 教諭 (教務部長)
伏見 圭太 教諭 (生徒指導部長)
水野 茂之 教諭 (進路指導部長)
竹ノ内 秀樹 教諭 (工業部長)
兼松 竹司 教諭 (部活動推進部長)

3 会議の目的 岐阜県立可児工業高等学校評議員会設置要綱に基づき、平成27年度の教育方針・重点及び学校課題について取り組み状況を説明し、それについての幅広い意見・提言を受け、本校教育の改善・充実に資するとともに、開かれた魅力ある学校づくりを推進する。

4 会議の開催 平成28年1月29日(金) 10:00~11:30 可児工業高等学校
評議員5名(1名欠席)と学校側8名が出席

5 会議の概要

(1) 学校長挨拶

(2) 学校の近況と課題の説明

教 務 部：進学系カリキュラムは週2回の7限授業を実施し、2年生4名、3年生12名が取り組んでいる。

基礎学力向上を目指し、朝10分のチャレンジタイムを実施し、各クラス複数教員で指導にあたった。

昨年来校したクリーブランド高校の家庭に8/22~8/28までホームステイし交流を深めた。この体験を全校集会や可児工祭で発表した。

文部科学省研究指定事業が3年目となり、全職員を対象とする「評価手法を明らかにする」研修などを実施するなど仕上げに向けて取り組んだ。

生徒指導部：通学路指導や校門指導による多遅刻生徒を把握した個別指導やチャレンジタイムの追い風もあり、遅刻者が減少傾向にある。

今年度はMSリーダーズ活動の推進に力を入れた。規範意識向上に効果のあるボランティア清掃をMSリーダーズ活動からHR活動に繋げていきたい。

教員の目が届かないところでの交通マナー向上のため、警察との連携を強化していきたい。

進路指導部：今年度は就職希望者が 79% (2%が公務員)まで増加し、良かった。県内就職者が 63%で可児市就職者が 25%であった。求人状況は良好で、求人数は 900 人を超え、1 社について複数の求人をいただける企業が多かった。

進学者については四大と専門学校の希望者の割合がほぼ変わらなかった。

工業部：飛び出せスーパー専門高校生の取り組みとして、企業・地域連携をテーマに、企業で技術・技能の指導を受け、学んだ技術・技能を活かしたものづくりをし、地元中学校に対してのテクノボランティアや地域イベントに出展・参加したことを発表した。また、環境フェスタへの参加や、加茂特別支援学校と連携し本校の実習を実際に体験していただいた。

部活動推進部：全部活動が活発に活動するようになってきおり、その中で全国を狙える部も出てきた。生産系部活動においては全国大会で上位入賞したマイコンカーラリーやものづくりコンテストにおいては旋盤作業が県大会で優勝した。

(3) 平成 27 年度機械科「課題研究発表会」参観

機械科の「課題研究発表会」を学習成果の一部として参観して頂いた。

(4) 協議 テーマ「本校の教育活動に関する感想と提言」

意見 1 留学すると英語を話さなくてはならない。どれだけ仕事ができても相手に伝わらなくては話にならないこともある。英会話は大切なので、このような機会をどんどん作って生徒たちを育ててほしい。

意見 2 公民館祭りで子供たちが物を作ることを楽しそうに取り組み、完成したことを喜んでいた。「ものづくりの楽しさ」を教えていただいた。また、生徒が活動できる環境を与えてくれた先生方の温かい取り組みは素晴らしいと思う。先生方の指導と生徒の愛校心や自信に結びつく絆は本当に素晴らしい。

MSリーダーズ活動で生徒たちが側溝の清掃を行う 2 枚の写真を見て、この生徒たちは自分たちの居住する環境を綺麗にしている。身近な課題に対し、自分たちで動き出せば周りも変わり始めることを気づかせる素晴らしい素材だと思う。初めは教えてもらわなくてはできないが、これを行うことで自分で気がついて行動できる人。目が向く、気が付く社会人になってほしい。私たちの心を打った。この取り組みを今後も続けていただきたい。

意見 3 学校の雰囲気は良い伝統が受け継がれ、変わっていない。特に部活動に一生懸命に取り組んでいるということを実感した。

意見 4 本校は 50 周年時に卒業生が 10000 人を超えている。本校卒業生は地元の各企業の社長から評価が高い。各企業で現場を支えている。高校生活の 3 年間は本当に大切なので頑張ってもらいたい。可児市長は可児市に可児工業高校があるおかげで企業誘致ができると言っており、地元の期待は高い。

委員からの質問と回答

Q:就職者のうち、可児市にどのくらい就職しているか？ A:県内で 25%です。

Q:チャレンジタイムは自主的に参加なのか？ A:チャレンジタイムの開始が始業です。

Q:MSリーダーズ活動の交通安全啓発活動に先生は毎日立つのか？ A:毎日立っています。

6 会議のまとめ

学校評議員の方々には、「課題研究発表会」を参観して頂くことで、ものづくりを通し社会から期待される人材育成を目指した教育活動に理解を深めて頂いた。2 回の評議員会では、外から見た本校の印象や学校に対する期待など貴重なご意見を頂くとともに、将来に向けての指針を示して頂いた。地域からの期待も大きく、地域の力を借りながらの生徒育成の充実と、交通事故防止や安全で安心できる学校運営は今後も重要な課題と位置づけ推進していきたい。